

適正な水管理で初期生育確保！  
除草剤の散布遅れに注意！



気象情報(新潟地方気象台 4月25日発表)

天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。  
週別の気温は、1週目は、低い確率70%です。2週目は、低い確率50%です。

1. 適期田植と初期水管理

◆品質のよい米を生産するためには、早期に分げつを発生させることが重要です。

<移 植>

- ・1株苗数3～4本、植付け深2～3cmで移植しましょう。
- ・移植前に弁当肥を施用することで、活着促進を図りましょう。

<水管理>

・田植え直後～苗が活着するまで

苗の葉先が少し見えるくらいの深水(3～4cm)を維持し、苗を保護しましょう。

・活着後(新根、新しい葉が出始めたら)

2～3cm程度の浅水管理で水温・地温の上昇を図り、分げつ発生を促しましょう。

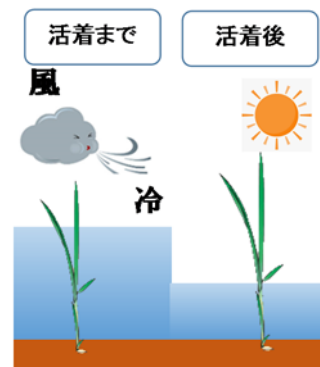
※「早朝のかん水と日中の止め水」励行で水温上昇を促し良質茎を確保しましょう。

※強風時や低温が予想される日は、一時的に深水にし、イネの保護に努めましょう。

茎数の少ない原因

茎数不足の原因はいくつか考えられますが、活着遅れや分げつ不足が考えられます。その要因には、苗質の不良や田植え後の天候不良も考えられますが、苗質や天候があまり悪くなくても、分げつが十分に取れないことがあります。

- ①深植えすぎて活着が遅れる場合や
- ②活着後の水管理が深水のまま分げつが進まない場合です。  
活着後も、深水のままでは分げつは進みません。分げつが少ないようでしたら、活着後は思い切って浅水管理に切り替えましょう。



保温的水管理イメージ

2. ワキ・アオミドロの対策

田植え後20日頃から好天時には地温が20～30℃に達し、生わら・有機物施用ほ場では土壌の還元化が強まりワキの発生が多くなります。又地力が高く、水温が好適温度(10℃～25℃)であること、日射量が多い等の条件下でアオミドロが発生しやすくなります。

【対策】①水の更新 ②落水により田面を軽く干す ③アオミドロ抑制資材、登録のある除草剤の使用

【アオミドロ対策資材】

	資材名	容量	当用引取価格	備 考
除草剤	モゲトン粒剤	3kg	2,530円	専用除草剤 ※特栽米は使用不可
	モゲトンジャンボ	500g	1,490円	
土壌改良剤	田んぼの鉄人	5kg	1,060円	特栽米もOK
	田んぼの鉄人	15kg	2,600円	

# 水田除草剤の効果的な使い方！

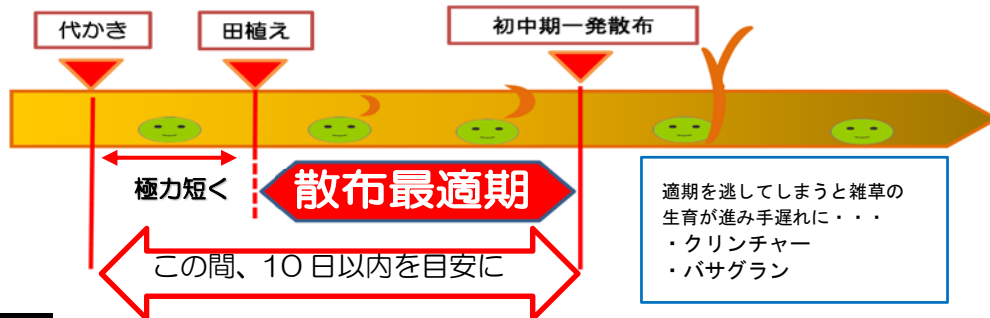
適期散布と適切な水管理で最大の効果を発揮!!

## ポイント1 代かき～田植えまでの期間を極力短く。

雑草の種子は田んぼに水が入った段階から動き出します。水を入れてから田植えまでの間が空けば空くほど雑草が成長してしまい、効果が出にくくなります。

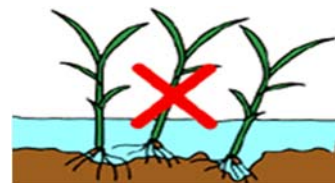
## ポイント2 田植え後、早い段階で散布する。

一発剤の散布が遅くなればなるほど、処理層を作るころには既に抑えきれない恐れがあります。



## ポイント3 植え付けはしっかりと。

浮き苗や浅植えだと薬害が出やすいので気を付けましょう。

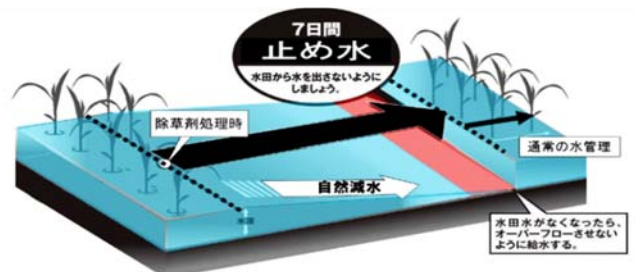


## ポイント4 除草剤を使う直前の水の確認。

水口・水尻はしっかりと閉鎖！！水は充分入れましょう。  
特に『ジャンボ剤』『フロアブル剤』は水を多めに（5～7cm）程度

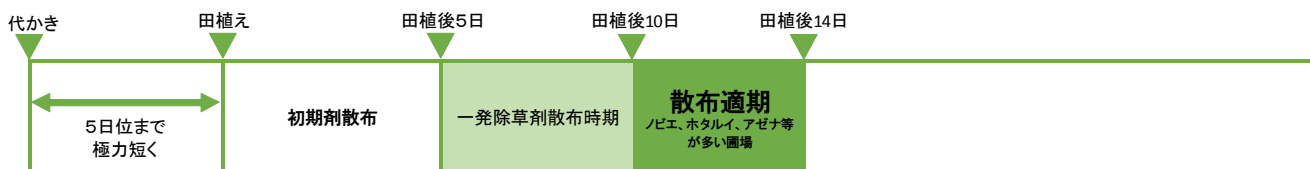
## ポイント5 散布後もしっかりと水管理を

散布後、7日間水田内の水を動かさないようにすることでより強い処理層が作られます。

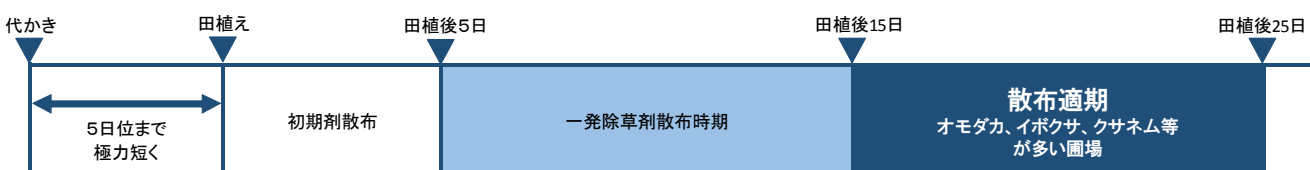


## ポイント6 難防除雑草の多い圃場は体系処理を実施しましょう。

◆体系処理の場合の例①（ホタルイ、アゼナの発生が多い圃場）



◆体系処理の場合の例②（オモダカ、イボクサ、クサネムの発生が多い圃場）



※製品ごとに使用時期が異なります。必ずラベルを確認してから散布しましょう！